

平成30年度市原地域医療構想調整会議 地域医療に関する課題について

1. 具体的な疾病等について

- 基本的には、脳卒中や心不全等の5大疾病やそれに準じた疾病から検討していく。
- 急性期として分類される機能の中でも、特に周産期と小児は地域で一定量の医療供給が必要になるため、機能区分や過不足の把握においても考慮を要する。
- 地域における疾病構造や有病率を検討できるデータがあると良い。
- 市原は圏域内でも人口や高齢化率、医療資源等に地域差があるので留意が必要。

2. 地域連携について

- 定量的に区分された機能と病院が自任している機能にギャップがあると、転退院等の連携が円滑に進まない場合がある。議論によるすり合わせを図っていく必要がある。
- 急性期病院から回復期病院に転院する患者の中には、治療が残っている状態の方がいる。回復期病院でも必要な処置は行うが、報酬では評価されないため機能間の調整が求められる。
- 患者の流出入のある近隣他圏域との協議の場が必要である。(特に長生。ほか、千葉、君津等)
- 医療機関同士だけでなく介護との連携も重要であり、患者の流出入にも影響する。

3. 医療受給の将来推計について

- 全国的な受療率の低下傾向を踏まえる必要がある。
- 医療へのアクセス性によっても受療率は変動する。地域内の患者の動きを把握することで、本当の医療需要を把握することができる。
- 提供されている医療の「量」だけでなく、「質」にも目を向けていくべき。

本年度の会議で御意見をいただいた上記の事項については、来年度以降順次検討していくこととしたい。